

2 農業経営モデル・技術等の展開状況⑤（茶業）

令和元年11月26日企画部会
資料4-2「農業経営等の展望検証資料（参考資料）」

経営モデルの概要

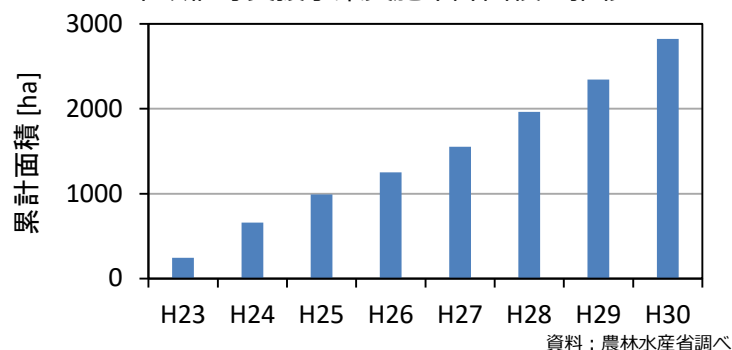
- ・早生、中生、晩生の優良品種を導入することで、摘採期の分散による作業の平準化。
- ・機械化体系の導入による省力生産を行うとともに、輸出に対応した栽培・加工技術の導入により、海外需要に対応し、販路を拡大。
- ・国内の新規需要拡大に向けて、消費者ニーズに応じたティーバッグや発酵茶（紅茶）を製造するなど多種多様な茶商品を開発。

（経営規模：家族経営（中山間地域）4.5ha、法人経営 50ha）

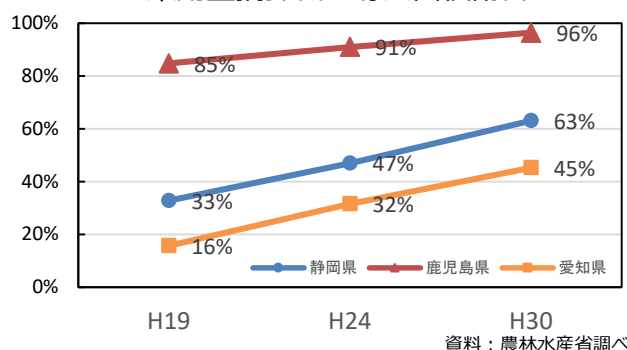
提示した技術等の展開状況

- ・優良品種への改植等（支援による改植等の累計面積：H23:243ha→H30:2,824ha）により品質・生産力を向上させるとともに、早生・晩生品種の組み合わせにより、作期分散や摘採期間の拡大を図り、作業を平準化。
- ・乗用型摘採機や省エネ型機械等の導入による省力化や、国内外での抹茶需要の高まりに対応したてん茶生産を拡大。
- ・飲料メーカーとの契約取引によるティーバッグ用等原料茶の生産や、紅茶製造機械の導入等により、実需者・消費者ニーズに対応。
- ・経営規模は年々増加し、100haを超える大規模な経営体が出現。

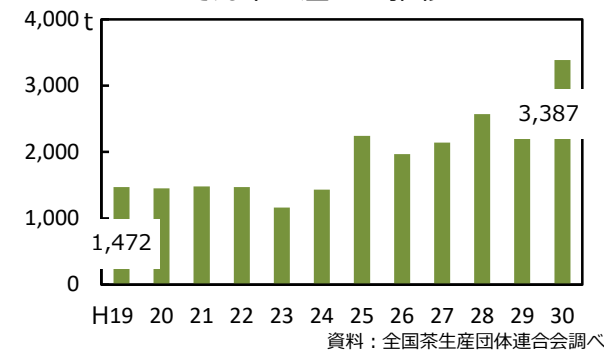
茶改植等支援事業実施累計面積の推移



乗用型摘採機の導入面積割合



てん茶生産量の推移



【新たな取組例】

- ・ICT等を活用したほ場管理や情報の共有化を図り、効率的な生産を実現する経営体が出現。
- ・大規模経営体を中心に、ロボット茶園摘採機やフィールドサーバなどのスマート技術の実証に取り組む経営体が出現。



ロボット茶園摘採機



フィールドサーバ